

# 青少年の自立を支える会通信

第20号 2002年3月31日発行

発行／青少年の自立を支える会 (NPO)

発行責任者／伊達悦子

所在地／宇都宮市南大通り4ノ2ノ18

編集責任者／福田雅章

電話 028-651-0161

FAX 028-651-0162

## 2002年度の課題

青少年の自立を支える会理事長

伊達 悦子

日ごろの「支える会」への物心両面にわたるご支援、心から感謝申し上げます。おかげさまで、「支える会」「星の家」とも、今年は5周年にあたります。ここまでこぎ着けることができましたのも、ひとえに会員の皆様、ボランティアの皆様のお力のおかげです。

雨の中での「星の家まつり」もさることながら、2月7日に行われたチャリティーコンサートでは、改めて多くの方に支えられている「支える会」を実感致しました。エレクトーン奏者、倉沢大樹さんの熱演、そして会場の皆様への再三にわたる呼びかけ、どれもこれもコンサートをお引受けくださったときからの倉沢さんのお気持ちであったことを後ほど伺いました。倉沢さん、当日会場にお越しくくださった方、ボランティアをしてくださった方々に、紙面をお借りして御礼申し上げます。

理事会では、現在ふたつのことを検討しております。ひとつは、認定NPO法人獲得の件です。「支える会」の財源の大半は、750名もの会員の皆様からの会費、寄付によります。そこで、会員の方々が税法上の控除を受ける道はないだろうか、目下事務局長が研究中です。認定NPOを獲得すれば可能なのだそうですが、そのためにはかなりの時間と困難な事務処理が必要とのことで、ここでもまた新たなボラ

ンティア捜しが求められています。

もうひとつの課題は、「星の家」建築問題です。ホーム長夫妻の3人のお子さんたちも大きくなり、生活の場としては限界に達しております。そこで、運営委員会が中心になって計画案を策定しているところです。理事会の議も経ましたので、次回総会には「案」をお示しできるかと思えます。

このように2002年度は大きな課題を抱えてのスタートとなりますが、このようなときこそ、元気が出るものです。「支える会」が大きく羽ばたくことができるよう、皆様に再度のお願いをして筆を置きたいと思えます。



# コンサートは大成功！

第5回青少年の自立を支える会  
チャリティーコンサート実行責任者

多門 孝

2002年2月7日木曜日チャリティーコンサート当日。リハーサルも終わりに近づき会場の準備もピークに達している頃、真冬なのに雷雨が！雪の心配をしたが”にわか雨”に安心！

そして入場開始10分前。お客さまが教育会館の外まで達する長蛇の列に、5分早めて入場開始。お客さまがホールにどんどん吸い込まれて行くさまを眺めていると、この様子だと会場に入りきれないお客さまが出てしまうのではと、不安が私の頭を横切る。

## ◎約750人が入場

開演間近。入場者数が約700名に達し、会場の客席は空きがチラホラと見える程度に埋まる。演奏に遅れまいと足早にホールに吸い込まれていく家族連れ。外の駐車場に入る車の流れも一段落の様子、演奏が始まった頃にはお客さまもまばらになった。当日券の販売に制限をかけずに済んで受付のメンバーはほっと一息！入場者数は約750名に達した。

開演。伊達悦子理事長の挨拶が終わると、エレクトーン奏者の倉沢大樹さん“大ちゃん”によるソロエレクトーンコンサートが始まる。演奏が受付にいた私たちにも聞こえ早く聞きたいと思う！

演奏中の会場をのぞいてみた。会場の人達はユーモアたっぷりの話術に大笑い、オーケストラやビッグバンドにも劣らぬダイナミックな演奏に感動、感激の様子！さすが世界グランプリ受賞者の“大ちゃん”である。最後の”明日があるさ“では会場のお客さんもステージに上がって大合唱！そして、会場から“焼きそば！？”のアンコールを受けて“八木節”の演奏。約2時間に及んだ演奏に幕！

## ◎星の家の存在をアピール

無事コンサートが終わり帰路につくお客さまの様子はと云うと、“感動したよ”“来て良かったよ”な

どの言葉がスタッフにかけられる。お客さまの興奮さめやらぬ笑顔！笑顔！が印象的であった。

そして、募金箱には千円札がごっそり。今まで経験したことのない6万円を超える寄付、青少年を支える会入会パンフも飛ぶようにお持ちになっていく。この様子を見て“大ちゃん”効果と終演時の星ホーム長挨拶が功を奏したのか？その反響の大きさに我らスタッフ一同ビックリ！星の家の存在を大勢の方にアピールできたと感じた瞬間であった。この様にコンサートは大成功に終わった！！

**エピソード1** “大ちゃん”が出演したジャズライブでのこと！ライブ休憩のとき“大ちゃん”にこのコンサートの話を持ちかけたところ、趣旨に賛同してくれて二つ返事で“いいよ”。この話を夏の事務局会議で披露したところ“ほんとに！”で一気に具体化、そして責任者に祭り上げられる。

**エピソード2** チケット販売の嬉しい悲鳴！“大ちゃん”効果による今までにないチケットの売れ行き。そして”売れすぎると入場できない人が出てきてしまう”と販売枚数を徹底して管理、コンサート1週間前には1,100枚を越えてしまいこのままだとやばいと販売をストップ！チケットを入手できなかった方にはこの場をお借りしてお詫びを申し上げます。次回はお早めの購入を！

**エピソード3** 星ホーム長がこない！コンサート当日、風邪を引いて体調不良の星ホーム長は9時に会場入りしたが、“会館に届けるスケジュール表を取りに行く、お昼頃には戻る”と言い残して星の家に行ったまま戻らず。なにやら星の家の元住人達のトラブル対応に追われている様子。何でこのコンサートの時と思うが“この様な子供達だからこそ星の家が必要なんだ”に納得。ところがプログラムを届けるのが星ホーム長だったからさあ大変！入場

かいた場面でした。

### ◎皆様に感謝

最後になりましたが、会場にお越しくくださったお客様を始め、チャリティーの主旨に賛同してご協力いただいた音響・照明の(有)ハーモニーの皆様、約50名の当日ボランティアスタッフ、そのほかこのコンサートを成功に導いてくださった多くの方々に感謝とお礼を申し上げます。

そして、“来年も皆さんとお会いしましょう！”と会場で約束してくれた、“気さくな大ちゃん”しかも受け取った謝礼をそのまま支える会に寄付！ またまた大感謝！ 感激！ 本当にありがとうございます。

おわり

## 会員の声 素敵なコンサートありがとう

「あら、倉沢さんのコンサートがあるのね、楽しいわよ」という知人の言葉に誘われて、多門さんに御紹介いただいた倉沢大樹さんのコンサート会場に足を運んだ私は、チャリティーという高尚な（と私には思えたのですが）主催目的がちょっと気恥ずかしいミーハーな参加者でした。スタッフの方達の丁寧な出迎えを受けて会場に入ると、たくさんの人達がホールを埋めていて、『チャリティーコンサート』＝『小数の篤志家がどう会』という私が抱いていたずい分失礼なイメージは、ここで見事に崩れ落ちたのでした。

何だか嬉しい気分で、主催の方から星の家とコン



サートの趣旨の紹介を受け、いよいよコンサートの開幕です。オープニングは『千と千尋の神隠し』。耳に親しんだ曲が流れ出すと会場は一気に和やかなムードに変わりました。倉沢さんは、星の家との出会い、出演を快諾した経緯などをエピソードを交えて楽しく語りながら、『WISH』『明日に架ける橋』などの曲をエレクトーンと、初演奏だというピアノまで登場させて演奏され、私達はその音色の多彩さや迫力に聞き入り、拍子を取り、笑い、最後は会場全体の『明日があるさ』の大合唱、アンコールで約2時間のコンサートは、大きな拍手の中で幕を閉じたのでした。

そして、星先生があいさつに壇上に立たれ「実は今日もちょっと事件がありまして、こちらに来れないかもと、いやあ参りました」と笑顔で感謝の言葉を述べられた時にも、倉沢さんに向けられた拍手に負けない大きな拍手が起きました。私もこのコンサートに感動し手をたたき続けましたが、星の家を支えている大勢の人達の暖かさに触れ、すっかり良い気持ちになって会場を後にしました。倉沢さん！ スタッフの皆さん、素敵なコンサートをありがとうございました。いただいた元気を、何かの機会にお返しできたらと思っています。

(30代女性)

### チャリティーコンサート収支報告

純益 885,068円

#### 収入

チケット売上	1,211,000円
広告料金	115,000円
会場募金箱	68,539円
寄付金	15,000円
合計	1,409,539円

#### 支出

会場借料	169,911円
音響・照明	210,000円
ポスター等制作費	23,432円
その他	121,128円
合計	524,471円

## 会員の声

### チャリティーコンサートに参加して

#### 豊田 省子

迫力あるエレクトーンの音色が一瞬にして会場を飲み込みました。2月7日夜、チャリティーコンサートの幕開けです。倉沢大樹さんのエネルギッシュな演奏と軽妙なトークが、日頃の雑務を忘れさせてくれました。ピアノを演奏しながら客席を回るというユニー

クな発想、庶民的な音色のアコーディオン演奏、お馴染みの「サザエさん」の編曲など、その巧みな才能は勿論のこと、その独創性・創造性は、多大なエネルギーを与えてくれました。千人が一体となったフィナーレの「明日があるさ」の大合唱は、星さん一家への大エールにも聞こえました。無報酬なのに「またね」と言って下さるお人柄は、ホッカホカです。

千人会場という大事業への挑戦は、大成功を収めることができました。ようやく5年目を迎えた星の家が、やがて大樹に育つよう会員として「私にできることを考え行動していきたい」と改めて思いました。厳冬の夜、ポッカリ温まって、夫婦で帰途に着きました。